

目次

1. 教職課程ニュースレター第7号に寄せて
2. 教職フォーラムのご案内
3. 教職課程教育センター運営委員便り
4. 本学の教職課程について
5. 教員採用試験合格状況
6. 卒業生教員の声
7. 2019年度教員免許状更新講習実施報告
8. 2019年度教育実習について・教育実習生数
9. 教職研究紀要投稿のご案内
10. Web ページのご案内

1. 教職課程ニュースレター第7号に寄せて

教職課程教育センター長

柴原 弘志

卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。

「現役の教職を目指す大学生と話ができて、何とはなしに初心に帰れました。」

「体験談などを話すことによって、私自身も教育について考えることができ、良かったです。」

これは、昨年度の本学「教職フォーラム」で在校生との座談会に参加された卒業生からいただいたアンケートへの内容です。在生にとりましても、教員採用試験への対策をはじめ、教職を目指す上での貴重な具体的なアドバイスをいただけた有意義な場となったようです。

また、同アンケートには「以前にも増して学生の教師になりたいという意識の高さを、質問の内容から感じ取ることができました。また来年参加させてください。」といった感想と共に、分科会によっては「もっと学生からの意欲的な質問があればよかった」といったような意見も複数いただいています。本学学生に対する座談会参加への姿勢づくりはもとより、今般教育現場において求められている「アクティブ・ラーニング」や「主体的・対話的で深い学び」に繋がる教職課程等の改善・充実への更なる取組の必要性を痛感しています。

卒業生諸氏におかれましては、今後とも本学の取組等に対するご意見をお寄せいただければ、在生はもとより本学教職員一同幸甚に思うところでございます。

教職課程教育センターといたしましても、卒業生の皆様方と本学教職員・在学生の交流をより推進してまいりたいと考えています。卒業生の皆様方には、今後ともより一層のご支援ご協力賜りますことを重ねてお願い申し上げます。



2. 教職フォーラムのご案内

教職課程教育センターでは、学校教育の現状をテーマに「教職フォーラム」を以下の通り実施いたします。

昨年度は講演および卒業生からの報告、全国で教員として活躍しておられる26名の卒業生と在学生の座談会を開催し、学校教育について語り合いました。在生は現職教員の生の声を聞くことで学校現場の実態や苦勞、やりがいを知り、教職を目指す志を更に高めることができました。一方、卒業生からは、「よい研修の場となった」「活発な座談会で充実した時間を過ごせた」というご意見をいただき、卒業生にも有意義な時間となりました。

今年度は、東京学芸大学の梅山氏から子どもの育ちを支えるつながりについて講演いただきます。また、卒業生の報告や、好評であった座談会を今年度も開催予定です。ぜひご参加のうえ、日々の業務の一助としていただくとともに、卒業生同志の情報交換の場としてもご活用いただき、皆様から教員を目指す在生へアドバイスをいただければ幸いです。

1. 日 時 令和元年11月9日(土)13:30~16:30
2. 場 所 本学12号館5階12502教室
3. 定 員 約300名
4. 内 容

- ①講演 テーマ「子どもの育ちを支える“つながり”
スクールソーシャルワークの視点から」
(講演者：梅山 佐和/東京学芸大学 教育学部
ソーシャルワーク教室 特任講師)
- ②卒業生からの学校現場の状況報告
(報告者：栗倉 雅久/宮津市立宮津中学校 教諭)
- ③座談会

5. 申込方法

10月25日(金)までに必要事項を記入のうえ、以下メールアドレスへお申込みください。

▽必要事項：①氏名 ②卒業学部 ③勤務先・担当校種・
教科 ④電話番号 ⑤メールアドレス

▽メールアドレス：

kyoushoku-center@star.kyoto-su.ac.jp

3. 教職課程教育センター運営委員便り

文化学部

小川 知恵 助教



平素より本学教職課程へのご協力ありがとうございます。文化学部の小川知恵と申します。専門は、応用言語学と第二言語習得を中心に研究・教育活動を行っています。本年度の教職科目では、「英語科教育法1」、「英語科教育法4」、「教職実践演習(中・高)」を担当しております。「英語科教育法1」と「英語科教育法4」では、第二言語習得理論を実践的に生かせるよう、グループや個人での模擬授業を取り入れています。春学期、初めてグループで授業案を考え模擬授業を行なった学生たちからは、「中学や高校で教えてくださった先生方はアイデアが豊富で、いろんなことを細かく考えて授業案を作ってくださっていたのか。」という振り返りが多く、改めて教

ることへのチャレンジと醍醐味を感じたようです。

8月には、教員免許状更新講習を担当させていただきました。「流暢に話す英語活動の実践」をテーマにした、第二言語習得理論についての講座でした。近年、国内外問わず第二言語習得研究の分野では、話す流暢さに関する研究が注目され多くの実証研究がなされています。また、新しい学習指導要領における「思考力・判断力・表現力」の観点や、今年度の中学生の全国学力・学習状況調査のスピーキングの導入、大学入試における外部試験導入などを見ましても、英語での発信能力はさらに一層強化されることと予想されます。私にとっても、教員免許状更新講習に参加された現職の中学校・高校の先生方から直接授業の様子を伺えたことは貴重な経験となりました。そして、大学の教職課程教育に携わる者として、教育現場の動向にしっかりとアンテナを張って自己研鑽をしていこうと刺激を受けました。最後になりましたが、皆様方のますますのご活躍を願っております。

4. 本学の教職課程について

本学は、令和元年度(平成31年度)に経営学部を改組、国際関係学部と生命科学部を新設しました。このうち、経営学部と生命科学部において課程認定を申請し、教職課程を設置しました。また、教育職員免許法及び同施行規則の改正による令和元年度(平成31年度)新教職課程の開始に伴い、既存学部学科の再課程認定を申請し、申請した全学部学科の再課程認定が無事に認可されました。これにより令和元年度(平成31年度)入学生および令和2年度入学生は、右欄の教員免許状が取得可能です。(佛敎大学又は聖徳大学の通信教育課程の併修により、小学校教諭一種免許状を取得可能です。ただし、前提条件があります。)

【本学で取得できる教員免許状の種類・教科】

学部	学科	中学校教諭一種免	高等学校教諭一種免
経済 経営	経済	社会	地理歴史・公民・商業
	マネジメント	—	商業
法	法律	社会	公民
	法政策	社会	公民
現代社会	現代社会	社会	公民
	健康スポーツ社会	保健体育	保健体育
外国語	英語	英語	英語
	ヨーロッパ言語 ※	英語・ドイツ語・フランス語	英語・ドイツ語・フランス語
	アジア言語 ※	英語・中国語	英語・中国語
文化	京都文化	社会	地理歴史
	国際文化	英語	英語
理	数理科	数学	数学・情報
	物理科	数学・理科	数学・理科
	宇宙物理・気象	理科	理科
生命科	先端生命科	理科	理科
	産業生命科	理科	理科

※ すべての専攻で英語の教員免許状を取得することが可能です。ただし、ドイツ語・フランス語・中国語の教員免許状は、当該言語を専攻している場合に限りです。

5. 教員採用試験合格状況

過去3年間の教員採用試験合格状況は次のとおりです。

区分	年度	2016(平成28)	2017(平成29)	2018(平成30)
既 卒	公立学校正規教員	26	52	45
	公立学校正規教員 ()は公立学校受験者数	10 (71)	7 (65)	9 (62)
現 役	公立学校期限付き教員	19	19	17
	私立学校教員(正規、期限付きを含む)	11	6	3
合計		66	84	74

※現役生には科目等履修生・大学院生を含む



6. 卒業生教員の声

福知山市立細見小学校

井上 須美子 元校長



31年間を中学校の数学と理科の教師として、6年間は小学校の管理職として勤めました。その間、教科指導法、教師の働き方など教育環境は驚くほどの変化がありましたが、児童や生徒を中心に据えた暖かくも厳しい教師の在り方が大切にされることは変わるものではありませんでした。

学校現場では、何処を切っても「人権」が見えなければならぬと言われます。人権とは、一人一人を大切に思いやりのある姿勢だと私は考えます。人権感覚が磨かれた教師になるためには、見たり感じたりしたことに対して、よく考えて、より良い方法で行動することの繰り返しを積み上げる修行が必要です。

中学校と小学校を経験したことから、教科指導の授業力の大切さを痛感しました。小学校では学級担任が主となりすべての教科指導をしますので教材研究が大変です。小学校で未理解のまま中学校に進学すると取り返すことはかなり厳しいです。中学校の授業は学習内容がより専門的になり教師の深い教材理解が必要です。

新学習指導要領では、子どもに何をどのような方法で学ばせ、何が出来るようにさせるのかを事前に教師が掴んでおかないと子どもに学ばせることが出来ません。

教職を目指す皆さん、子ども一人一人を愛し、より良く延ばす方法について人権意識を持って考え、行動して、子どもたちに未来を切り拓く力をつけてやってください。

京都市立椋原中学校

堂埜 健 教諭



平成22年に京都産業大学法学部を卒業し、1年間劇団で活動した後、教師になりました。現在、生徒指導部長と生徒会主任などの分掌を受け持っています。

さて、私は教師という仕事はクリエイティブな仕事だと考えています。授業、部活動、委員会活動、いずれにしても、無難にこなす事は可能です。しかし、その一つ一つの教育活動に、どのような目的を持って、どのような効果を期待して、どのような結果を出すのかを追究していくのは、容易なことではありません。どうすれば生徒が自分で考え動けるようになるのか。どうすれば生徒の思考が深まっていくのか、創意工夫と試行錯誤の繰り返しです。その結果として、生徒の成長が目に見え始めた時には本当にやりがいを感じます。一つ一つの授業を分かりやすくすること、それは勿論大切なことですが、それら全ての教育活動を通して、目の前の子どもたちをどうしたいか、その思いこそが本当の意味で大切なのだと、最近思うようになりました。

とは言え、新任の先生が全体を見通して教育を行うのは難しいと思います。どんな生徒を育てたいか、教科を通して、学級を通して、何を学ばせたいか、という思いを持つ事。それが今出来ることだと思います。その思いを早く子どもたちにぶつけない、と居ても立っても居られなくなったら、こちらの世界にお越し下さい。きっと素敵な先生になれると思います。

7. 令和元年度教員免許状更新講習実施報告

教職課程認定を受けている大学としての社会的責任を果たすため、令和元年度も教育と研究の蓄積を活かした教員免許状更新講習を実施いたしました。次年度も教員免許状更新講習を開講する予定です。ぜひご活用ください。

<実施期間：令和元年7月24日（水）～令和元年8月20日（火）>

開講講座	参加人数	開講講座	参加人数
【必修】教育の最新事情	54	【選択】「文学を読む」・「流暢に話す」英語活動の実践	10
【選択必修】道徳教育	10	【選択】植物の環境応答反応と遺伝子発現解析実習	9
【選択必修】ロールプレイによる相談面接の実際とプロセスレコードによる学校臨床力向上のための省察	14	【選択】運動神経を高めるためのゴールデンエイジにおける留意点	15
【選択必修】「先手の生徒指導」個々と組織の対応について	21	【選択】幼児期から児童期における運動遊び	33 ※
【選択必修】「学校内の組織運営」～組織の目標設定と意欲に着目して～	10	【選択】学校体育におけるタグラグビーの指導法	14 ※
【選択】社会学のエッセンス	6	【選択】小中高を通じた算数・数学での「深い学び」の実現に向けた講義と演習	17
【選択】生徒に興味を持たせる授業研究	20 ※	【選択】学校図書館とICT活用	24
参加人数合計 257人（述べ人数）		※2日程開催の合計人数	

8. 令和元年度教育実習について

理学部物理科学科

平野 裕城



私は、母校の橋本市立紀見東中学校で実習を行いました。実習中は理科の授業を担当させていただき、部活動はソフトテニス部の指導をさせていただきました。実習中、生徒への対応で困ることが何度かありました。その中で私が学んだことは、教師という仕事を楽しむことの大切さです。

私が困ったうちの一つは、授業中ノートを開かない生徒です。その生徒は普通の授業でもノートを開かないようで、案の定、私の授業中もノートを開きませんでした。そこで私は「ノート開けようか」と根気強く声をかけることにしました。しかし、なかなかノートを開かず、どうしたらいいのか戸惑っていました。そのことを部活の顧問の先生に相談したところ「私なら・・・という風にします。方法は一つではありません。うまくいかないこともあると思いますが、それを考えることを楽しんでください。」というアドバイスをいただきました。それから私は楽しんで色々な方法を考えては試し、何度も失敗しました。そして、試行錯誤の結果、その生徒は、実習最後の週には自分からノートを開くようになってくれました。その時の達成感は言葉では表すことのできないものでした。

私が行った方法や、顧問の先生からいただいた具体的なアドバイスは、あえて書かないでおきます。みなさんが実習に行かれたとき、生徒対応で困ることがあると思います。その時は、深く悩みすぎずに楽しんで対応方法を考えてみてください。

○令和元年度教育実習生数

学部	教育実習生数 ()は昨年度数
経済	11 (12)
経営	8 (10)
法	6 (17)
外国語	17 (19)
文化	8 (6)
理	29 (29)
コンピュータ理工	1 (2)
総合生命科	6 (10)
合計	86 (105)

※科目等履修生を含む

9. 教職研究紀要投稿のご案内

教職課程教育センターでは、学術の振興に寄与することを目的とし、毎年『京都産業大学教職研究紀要』を刊行しております。

本学をご卒業された現職教員または教育関係にお勤めの皆様もご投稿いただくことが可能です。皆様からの積極的なご投稿をお待ちしております。

<投稿要領>

1. 投稿種別 実践記録
2. 原稿量 400字詰め原稿用紙50枚以内
3. 投稿内容
(1)原則、教職課程における教職および教科に関するもの
(2)未発表のもの
(3)図版や統計資料を掲載する場合は、指定の原稿枚数に含めること
4. 投稿方法
原則、Wordで作成し、記録媒体(CD-R等)を添えて、令和元年11月30日(土)までに教職課程教育センターへ提出してください。(原稿には、邦文および英文のタイトルと要旨を添付すること。)

5. 特記事項

- (1)本論集に掲載された実践記録の著作権は、京都産業大学に帰属する
- (2)投稿には個人情報保護法および人権上の問題が生じないよう配慮のこと

※研究紀要のバックナンバーについては、本学の「学術リポジトリ」にて閲覧可能です。

<https://ksu.repo.nii.ac.jp/>

10. Web ページのご案内

教育分野でご活躍されている卒業生の皆様対象のWebページを開設しております。ぜひともご活用ください。

<https://www.kyoto-su.ac.jp/faculty/kyoshoku/index.html>

(主な発信内容)

・イベント情報 ・証明書の申請方法 ・教員免許状更新講習の案内 ・教職ネットワーク登録について ・教職研究紀要の投稿案内 等

<発行>

京都産業大学教職課程 News Letter 第7号

発行日：令和元(2019)年10月1日

編集発行：京都産業大学 教職課程教育センター

<お問い合わせ先>

京都産業大学 教職課程教育センター

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

TEL:075-705-1479 / FAX:075-705-1448

E-mail : kyoshoku-center@star.kyoto-su.ac.jp